



ママの夢、かなえよう



ママも私らしく
ハッピーに生きましょう!

子育てをしながら夢をかなえた
ママたちを紹介するコーナー。

今回は女性でも安心して任せられる、
木造住宅設計のプロ集団を作る事を
目標に活躍中の有美ママからの
メッセージです。



河野 有美ママ
Yumi Mama

お子さまは小学4年生の女の子、その他お母さんと姉家族(姉+義兄+中一の女の子)、子次郎(犬)が一匹という大家族!
●Counseling/Home.K代表
●有限会社フジタ工事チーフデザイナー
●cafe wacca オーナー
●北海道女性起業家 有限責任事業組合 rimrim 代表
●一般社団法人 しんせいサポート北海道 業務執行理事
と建築、設計、起業家支援に関わるたくさんの会社で代表を務める。

今の仕事につくまでの道

お部屋の模様替えが大好きだったので、「自分の設計した家に住みたい!」と思ったのがきっかけでした。そこで木造住宅を勉強する専門学校へ進学。2年間勉強し、就職が厳しい中、運よく北海道開発局の営繕部に入社。でも、やりたかった住宅の仕事ではありませんでした。そんな折、実家を建て替えるという話になり、ようやく自分の出番だ!と思いきや、当時の工務店は男世界で、女性の意見は受け入れてもらえない体制でした。意見は聞いてもらえない、勝手に家を作ってしまう工務店。毎日が喧嘩でした(笑)

そんな時、偶然に開発局時代に出会っていたゼネコン社員、後に(有)フジタ工事を立ち上げた藤田社長と再会しました。藤田さんはもともと、ご実家が木造住宅の棟梁だったこともあり、木造住宅にも詳しくあったんです。そしてタイミングよく、女性の設計士を捜していた藤田さんの会社で全ての設計をさせて頂く事になったんです。

cafe waccaについて

おうちビジネスで自宅で設計事務所をしていたのですが、5年経った頃、そろそろ事務所が欲しいなあと思っていた時、偶然に叔母が近所の空き家情報を知って☆もとは土木会社が事務所に使っていたプレハブの建物を藤田社長、大工さん、私の3人で改装しました。その頃完全に食生活が乱れていた私を救うかのように、母、叔母がお袋の味を提供するcafe waccaを1階にOPEN。2階は事務所、それ以外のスペースは、レンタルスペースとして起業家のみなさんにお貸ししようという事になりました。(P.20を見てください)

北海道女性起業家
有限責任事業組合rimrimの誕生

2階のスペースを起業家さんにと
思って開放していたところ、多くの女性起業家さんが利用してくださって、
たくさんの方と出会いました。当時、
「おうちビジネスを始めよう!」を提
唱。店舗併用住宅の提案に力を入れて
いました。きっかけは、ある新築設計
の依頼でした。美容師だったその家の
奥様は、出産後幼稚園に預けている時
間を利用してアルバイトを始めまし
た。でも休みづらい環境に悩んでいる
時、ご主人が「一人でできる美容室を
自宅に作ったら?」と言ってくださっ
たことがきっかけで私のところへ。今
では、完全予約制の美容室として、子
供の「いつてきます」や「ただいま」
の声を聞きながら好きな仕事を続けら
れ、なによりもストレスがなくなった
そうです。それ以来、このスタイルが
今後の女性の仕事のあり方に一石を投
じると、直感。自分の周りを見渡
したら、沢山の素敵な女性起業家さん
が集まっていることに気がつき、皆さ

これからの夢と目標

今に声かけをし、有限責任事業組合としてきちんと登記した組織rimrimを作ったのです。起業といっても、様々な業種がありますよね。全ての業界に精通している人なんていない。だったら様々な業種で組織を作れば、仲間同士、相談が気軽に出来るし、一人で出来ないことも仲間が集まることで可能になる。一石二鳥! 前向きな女性の支えになる組合になりました。

今の目標は、木造住宅設計のプロ集団を作る事です。

- ①工務店さんとの間の通訳をしてくれる女性のアドバイザーを増やしたい。
- ②木造住宅の構造計算業務の拡張

木造2階建住宅の構造計算は建築士に委ねられています。

おうちを建てた方で、構造の安全性の確認を証明してもらった方っていますか!? こういう状態を改善するべく、長期優良住宅制度というのを国が作っ



て、構造計算の行った住宅に補助金が出ています。設計図を書いたり、構造計算をしたりする仕事は、自宅でも十分出来るお仕事なので、女性建築士が出来ると思うのです。それが目標です。目標を達成させるには、長く続けることが大事だと思います。とにかく、続けること。どんなことでも、ボヤツとしてでもいいんです。目標があると、その時々で、なんだかアイデアがわいてくると思うんです。そして思い立ったら、行動に移す! 小さな行動も続ければ大きくなるのではないのでしょうか。おばあちゃんになっても続けられるビジネスを一つ持つと、将来も変われると思っています。